

今年度の5年生は、「減災～いつか起こるその日のために～」というテーマで阪神・淡路大震災に向き合いました。25年という月日が経つなかで、風化という言葉が広がってきています。しかし、神戸祇園の5年生は、25年前に何があったのか真剣に向き合いました。現実を知ることですらい思いをしました。東遊園地に行くことで、6000人を超える命に向き合いました。自分の命を守ること、自分の命を守ることができれば大切な人の命も守ることができると知り、今自分たちができる減災対策を考えました。

震災学習のまとめとして、「1.17メモリアル集会」の中で全校生に自分が感じたことや学んだことを発表しました。

希望の灯り



希望の灯りには亡くなった人の魂が感じられました。炎の温かさとはまるでちがう、魂のぬくもりでした。

～児童代表の言葉より～

希望の灯りを前に、自然と目をつぶり、手を合わせる姿が見られました。「あったかい」とぬくもりを感じました。心が大きく動いた震災学習です。

もしも自分のお母さんが亡くなっていたら、私は生まれていません。亡くなった人たちは、私に命があることの奇跡を教えてくださいました。

～児童代表の言葉より～

ゲストティーチャーをお招きして、当時の様子や、新聞記者として何を大事に阪神・淡路大震災と向き合ったのかを聴かせていただきました。そこから減災というテーマが生まれました。



瞑想空間



避難訓練の大切さを知りました。避難訓練の意味を知り、真剣に取り組むことが備えになる。いざというときに自分で判断して動くことができる。

～児童代表の言葉より～

神戸新聞社の方の話を聴く会



1.17メモリアル集会